

地方から再生に挑む医師

古垣斉拡さん(36) 東金市



東京から見学に来た医学生に病院の研修プログラムを熱心に説明する古垣斉拡医師＝東金市

若手育ててる環境整備を

一票の思い
09ちば衆院選

全国で地域医療の崩壊が問題となる中、県内で最も医師が少ない医療圏にある県立東金病院に内科医長として勤務する。専門医認定

を取可能な環境を整えるを」と主張する。「専門医だけで地域医療などの取り組みを見て」「専門性を磨きつつ、離島で培った地域医療の経験を生かせる環境がいい」と、鹿児島から赴任。ほかにも若い医師が集まり、病院は再生への道を歩み始めた。これまでの経験で感じるのは「行政は失敗を生かしていない」。救急医療に注目が集まり、病院建設や医師集めだけに走る姿勢に「また医師が疲弊して病院が空になれば同じこと。長予算配分が必要」と要望する。

公立病院が担い手になるべきだと考えている。「地方でも教育のある所に医師は集まる。地域医療を守る人を育てるための環境整備、

変わる地域医療

「責任力」と「政権選択」を前面に自民と民主の激突が予想される真夏の衆院選。自民が圧勝した「郵政選挙」から4年がたち、医

療、介護、子育て、年金、雇用、経済などの政策について、県内の有権者が託す「一票の思い」を聞いた。

住民視点で活動するNPO

藤本晴枝さん(44) 東金市



若手医師を集めた医療セミナーでNPOの活動を紹介する藤本晴枝さん＝東金市

患者データ現状知って

NPO法人「地域医療を育てる会」の理事長として、機関誌を発行して救急医療の現状を伝えたり、若い医師育成に協力する活動を住民の立場から続けている。生後間もない三女が深夜に発熱、周りに医師がおらずがく然とした経験から、同会を立ち上げた。

「必要な医療、適正な医師の配置とは何か。まず考えるための基礎データが必要」と主張する。各疾患の患者が地域ごとに何人いるかといった数値は、日

本で集計されていない。地域で出産できる医療機関を問い合合わせた際、行政が把握していたのは「産婦人科」の数だけ。同会で調べてみると、お産を扱うのはたった2院で、8院は取りやめていた。「現状が見えていないまま作った政策でいいはずがない。住民へ

何か、住民も議論すべき。決定事項が行政から下りてくる仕組みはもう古い」と、住民の思いを吸い上げられる行政を求める。

× ×

Q 医師不足の現状 県内医療整備課によると、医師の数は、2006年末現在9322人。人口10万人当たり約153人で、全国ワースト3位。山武長生夷隅地域は、全国平均の半数に満たない10万人当たり97人と、偏在も進んでいる。